

は、特記仕様書に明記されたリクワイヤメントから必要項目を選定し、協議のうえで適用する方法となっている。実施項目としては、4 モデルにプロジェクトの時間の管理情報を付与して工程をシミュレートするモデルや、資産に関する属性情報を付与した維持管理のためのモデルの試行といった属性情報の活用に主体を置いた内容に移行している。

プロジェクトへの の適用については、筆者が12年に に積極的に取り組んでいる西欧のゼネラル・コントラクターに赴き、彼らの手法を4か月にわた

正・変更・追加などを適時共有できる環境 (D)
の構築を行う。

(4) 生産管理システム

」」の工場ではプロジェクトの情報はすでに電子データ化されており、プロジェクトごとにデータベースに管理されているが、それらのデータは、設

モデルは工事着手時までに完成しているのが理想である。しかしながら、現状の国内のプロジェクトでは

要領書として作業者への説明資料にも活用している。さらに、 モデルから重心位置を算出することも可能であり、桁ブロック反転時の吊り位置や輸送時の荷姿の検討にも活用している。

3.2.3

(2) データ互換性への対応

